

# 生きもの調査レポート

2022年6月11日 場所：神奈川県愛川町JONA田んぼ 天気：曇り 気温23.5度

JONA田植え1週間後（畦草刈り）		
動物調査	出現種数	種名
鳥	8種	トビ、キジ、ホトトギス、ハクセキレイ、ツバメ、スズメ、マガモ、カルガモ
両生類	1種	アマガエル
甲殻類	1種	カイミジンコ
水生昆虫	5種	カメムシ目：コオイムシ、ヒメアメンボ 甲虫目：コガムシ、チビゲンゴロウ、ゴマフガムシ
トンボ	—	
甲虫	3種	ナミテントウ、イモサルハムシ、シデムシ類幼虫
その他の昆虫	5種	モンシロチョウ、キアゲハ、ハラヒシバッター、イナゴy、コオロギ類y
クモ	1種	徘徊：キクツキコモリグモ 造網：
動物24種 確認 ※y = 幼虫 ▲ = 外来種 目立った生きもの：アマガエル、チビゲンゴロウ		
畦草調査	出現種数	種名
在来種	44種	畦周り：アオツツラフジ、アシカキ、イヌガラシ、イヌタデ、イヌホオズキ、イヌワラビ、イノコヅチ、イボクサ、 <b>オオジシバリ</b> 、オオバコ、オニタビラコ、 <b>カキドオシ</b> 、カタバミ、カナムグラ、カモジグサ、カラスノエンドウ、カラムシ、ギシギシ、キュウリグサ、クワ類、コヒルガオ（アイノコヒルガオ？）、コモチマンネングサ、シロザ、スイバ、スズメノカタビラ、セリ、センニンソウ、チヂミザサ、 <b>チドメグサ</b> 、ツユクサ、トキワハゼ、ドクダミ、ナズナ、ノゲシ、ヒルガオ、ヘクソカズラ、 <b>ヘビイチゴ</b> 、メヒシバ、ヨメナ、ヨモギ 水田内：アオウキクサ、アカウキクサ、アミミドロ、オモダカ、コナギ
外来種	23種	アカバナユウゲショウ、アメリカセンダングサ、 <b>アメリカフウロ</b> 、アレチギシギシ、イヌムギ、オオイヌノフグリ、オニノゲシ、コセンダングサ、コハコベ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、 <b>セイヨウタンポポ</b> 、タチイヌノフグリ、ナガミヒナゲシ、ニワザキショウ、ネズミムギ、ハキダメギク、ハルジオン、パンジー類、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、マメグンバイナズナ、 <b>ムラサキカタバミ</b>
植物67種確認 ※畦草の外来種率34% *17世紀（江戸時代）以降は外来種に入れてあります。 ※小道を挟んで向かいの畦 ※水生昆虫＝節足動物門昆虫綱の中のカメムシ目、甲虫目の2目のみ		

## 田植え後のJONA愛川田んぼ 解説

植物：定期的な畦の草刈りにより、血止草（チドメグサ）、垣通し（カキドオシ）、大地縛（オオジシバリ）、蛇莓（ヘビイチゴ）など背丈の低い在来植物が優先した状態ができつつあります。しかも畦の植物の種類が豊富で、生物多様性向上にも貢献しています！外来種も多いのですが、草刈りにより大発生せずにいるため、ムラサキカタバミなどは田んぼに彩りを添えています。また、アメリカフウロやセイヨウタンポポのように、お茶や食用になるものは、オーガニック農地では有用な野草とも言えるでしょう。

動物：田んぼの水生昆虫やトンボ（成虫、ヤゴ共に見られなかった）が極端に少ないので不思議に思っていたが、マガモとカルガモの異種カップルがやって来て、隈無く田んぼの中で嘴を動かしていました。カモたちはオーガニックの野草と虫やオタマジャクシを食べているわけです。環境に配慮した農業をすると捕食者が来て色々と食べてしまうことがあります。しかし3年、5年、10年と長い目で生きものの増減やサイクルを観察することで、周辺環境との繋がりも見えてきそうです。





マガモ・カルガモのペア



丈の低い畦草の上のアマガエル



サルハムシがいた草は、ヒルガオとコヒルガオの雑種「アイノコヒルガオ」のようです。



シデムシ幼虫の体液を吸うヒメアメンボたち



雑草のオモダカの鉢植え/渋谷区



センニンソウの薬効は喘息の緩和！



アメリカフウロとセイヨウタンポポは食用可！



綺麗！可愛い！と人気だったムラサキカタバミ